

# 専門学生に対するIT現場期待

- 開発現場
  - 複雑なシステムを安価に開発、維持していく力
- 運用現場
  - OSSや仮想化を活用した低コストなインフラ運用
  - クラウドの積極利用
- 交渉・設計
  - ビジネスの現場に踏み込み、技術サイドから有用なアプローチやソリューションを提案する力
  - 少人数によるアジャイル開発で柔軟にビジネスのニーズに対応していくスケジューリングと開発工程管理

# IT資格の現場での有用性について

- ベンダ系資格は即戦力として重要
- OSS系の資格も需要増 (LPIC、OSS-DB、Android、Ruby、PHP、Railsなど)
- 採用者の声:「実績重視。ただし、実績(趣味で作ったソフトウェアなども含む)がなくても、資格があれば面接はする。前向きな学習姿勢は、それだけで評価する」

# 今後の日本のIT産業の方向性と必要人材像(求められる知識、技術、素養等)

- 新しい知識を吸収し続ける姿勢
- ドキュメントが読め、メールのやり取りに困らない英語力(TOEIC600~700以上)
- 技術だけでなく、幅広く社会やビジネスに関心を持ち、複眼的にITを見られるだけの素養

# IT産業の構造変化及び人材シフトの動向

- SaaS台頭により、少数精鋭のプログラマ集団への需要が拡大
- Webとモバイルの社会的浸透継続により、OS、サーバから、ブラウザと端末上へエンジニアの関心やマネタイズ領域がシフト中
- PaaS普及により、少数の内製エンジニアの活躍の場の広がり

## 今後育成すべき人材像、専門学校教育領域について

- IT産業悲観論が増す一方、社会やビジネスとの接点領域に膨大な開発・運用需要が生まれつつある。こうした動的な市場需要を見越して、積極的に自分のスキルセットへの学習を「投資」として捉えて、専門分野、得意を自発的に選択して学習を続ける人材。「学び→使う」という固定体的発想は終わり、スキルセットのポートフォリオ運用に個々の技術者は意識的にならなければ、個人としても、組織としても生き残りは厳しくなる